

すいがい

はあく

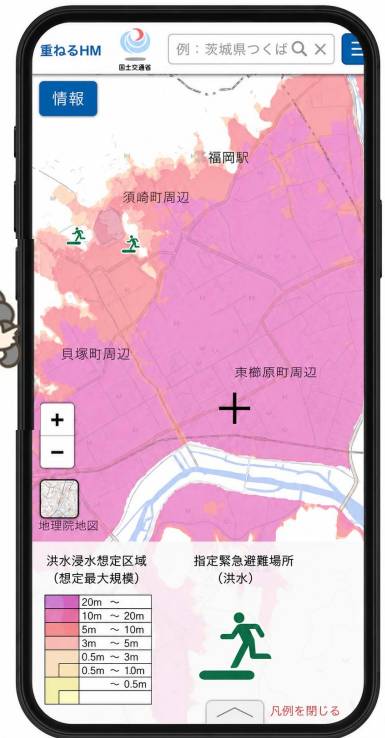
ハザードマップ(水害リスクの把握)



自分の家の近くにも災害の危険があるのかな？



「ハザードマップ」といって、災害が起きたときに、どこでどのような被害が発生しそうかわかる地図があるんだよ。
例えば洪水ハザードマップでは、川の水があふれたときに浸かる範囲や深さなどを、マップ上の着色範囲や色の濃さから確認できるよ。



ひなん

ぼしよ

ひなん

避難場所と避難ルート



他にはなにが分かるの？



近くの避難場所も確認できるから、避難するときのルートを決められるよ！
地域のハザードマップを確認して、家の近くの危険や、実際に避難ルートを歩いた感想などを家族や友達と話してみるといいね！

① 地図を用意し、自分の家と避難する場所にしるしをつけよう。

② どの道を通って避難するか、3つくらいルートを考えてみよう。



さんこうしりょう
〈参考資料〉

ハザードマップポータルサイト <https://disaportal.gsi.go.jp/>



● 洪水のときの避難場所

避難場所は災害の種類によって使える場所が違うよ。

洪水のときは、洪水マークに○がついている避難場所を確認しよう。

土石流	がけ崩れ・地すべり	洪水・内水氾濫	大規模火災	高潮・津波	
○	○	○	○	×	
緊急避難場所				★★会館	

クイズにチャレンジ！



問題：避難場所と避難ルートの考え方として、間違っているのはどれ？

- A. 一番近くの避難場所に最短ルートで避難するべき。
- B. 災害の種類ごとに避難場所と避難ルートを決めておくべき。
- C. 避難ルートは川の近くや土地が低い箇所などを避けるべき。

答えは裏面にあるよ





クイズの解答・解説

かいとう
解答

A. 一番近くの避難場所に最短ルートで避難するべき。

かいせつ
解説

一番近くの避難場所に最短ルートで避難することが、安全とは限らないんだ。避難場所は、それぞれが対応している災害の種類があって、災害の種類ごとに○×で示しているんだったね。近くの避難場所がどんな災害に対応しているか確認しておくことが大切だよ。間違えて違う避難場所に向かうと危険な場所である可能性もあるからね。避難場所の種類は、ハザードマップポータルサイトや、建物のそばにある看板等でも確認できるよ。

また、避難ルートは、最短ルートではなく安全なルートを選択することが大切だよ。例えば、大雨で川から水があふれそうなときに川の近くを通ると、川に落ちてしまう可能性があるね。ほかに、土地がまわりに比べて低い場所では、すでに道路が水に浸かっていてうまく逃げられないかもしれないよ。特に、急激に道路の高さが低くなる*アンダーパスと呼ばれる区間は水に浸かりやすく危険だよ。

だから回り道になったとしても、安全な道を通って避難することが、自分の命を守ることにつながるんだ。

